

矢部清流学園

学校だより 3号



# 善遊善学

学校教育目標 ふるさと矢部を愛し、未来を拓く学力と健康な体を持ち、共に伸びる  
児童・生徒の育成～学校地域家庭をつなぐ「総がかりの教育」の推進～

重点目標 自分の思いや考えを仲間とつなぎ、広げていく子どもの育成

令和4年6月2日 文責 古川 志乃



## コロナに負けない! Stay safe! Stay positive!

5月末、矢部清流学園においてコロナ感染が広がり、自宅待機を余儀なくされた人が増えてしまいました。急遽、下校時間を変更（善遊科）したり、学級閉鎖（6年）をしたりと、ご心配・ご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。しかし、みなさんが感染対策に協力してくれたおかげで、少しずつ平常を取り戻しつつあります。また、ピンチはチャンス！登校できなかった人も、オンライン授業を受け、離れ離れではありましたがクラスの仲間とともに勉強することができました。つながり合うことの喜びを感じることができた時でもありました。

「With コロナ」これからも、感染防止対策を徹底しながら、共に励まし合って、この困難を乗り越えていきましょう。自分と周りの人の大切な命・人権を守っていきましょう。

## 愛樹祭コンクール 教育長表敬訪

昨年度末に実施された第31回愛樹祭コンクールにおいて、たくさんの児童生徒が受賞しました。その中でも、文部科学大臣賞を受賞した浅井満さん（9年生）、福岡県知事賞を受賞した野中夏羽さん（8年生）、福岡県教育委員会賞・環境大臣賞を受賞した高山琴羽さん（9年生）は、5月16日、八女市教育長に表敬訪問をしてきました。教育長さんとお話をさせていただいたのですが、「矢部と久留米の星空を比べて、矢部の星空がいかにも美しく、素晴らしいかを感じたこと」「祖母が作る矢部の産物柚子胡椒がいかにもみんなに愛されているか」など矢部のことを自慢げに話す姿は、学校教育目標の「ふるさと矢部を愛し…」を達成させるもの。突然のインタビューにもかかわらず、自分の考えをしっかりと伝えることができていた3人を大変誇りに思いました。浅井さんの作文は、消防団の経験がある父とともに山火事の消火活動に携わった経験や森や木を守る大切さを表現していますが、消防の全国誌にも取り上げていただきました。これからも、こよなく矢部を愛し、矢部のよさを積極的に発信できる人であってほしいと強く願います。



## 6年 修学旅行 5月19～20日

5月19日～20日 6年生は長崎へ修学旅行に行きました。旅行前から平和学習を行っていましたが、実際に目で見て、聞いて（長崎さるくガイドさん、語り部城臺美彌子さん）、子どもたちは考えを深めることができました。爆心地で行った平和集会では、「平和の誓い」を唱え、事前に作成していた平和を祈る盾を奉納してきました。また、長崎の名所自由散策活動においては、人と人とのつながりにも触れることができました。出発や帰校時で、下級生や先生方、保護者の皆様が温かく見送ってくださったことに子どもたちを含め引率した私たちも幸せいっぱいになりました。

【子どもの感想より】 ※ スペースの関係で、一部抜粋して紹介いたします。

「成長した修学旅行」

まず1日目は、山里小学校や原爆資料館などに行って平和のありがたさや原爆の恐ろしさを学びました。……山里小学校では、「あの子」という詩を読みました。原爆にあっても生き残ったのに、自分の大切な人を亡くしてしまったために、生きていることを心から喜ばず悲しい心で過ごしている人がいたことがわかりました。

また、被爆を体験した方の話では、爆心地からはなれて住んでいたのに、一瞬で体がふき飛ばされて、がれきの中にうまっていたそうです。それを聞いて、改めて、原爆の威力がとてつもなく強くてこわかったんだなと思いました。そして、戦争はどんなことがあってもしてはいけないんだと感じました。

2日目はグラバー園や出島などに行きました。バスを降りて、地図を持って6年生4人だけで目的地を探して歩きました。とちゅう、道がわからなくなって迷子になりましたが、近くの人に道を教えてもらってたどり着くことができてうれしかったです。……

二日間でしたが、いろんな所を4人で回り、時々迷ったり、どっちへ行くのかもめたりしたけれど、たくさん学べていい思い出になりました。人と人が傷つけ合う戦争ではなく、人と人が協力し合う世界になればいいなと思いました。今後も、修学旅行で学んだ事を忘れずがんばりたいと思います。



